

## 岡部研究プロジェクト「研究論文概要集」(2002年度秋学期) について

岡部研究プロジェクトでは、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2002年度秋学期のものであり、このシリーズの第8号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究プロジェクト1は「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究プロジェクト2は「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」であり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。今回の概要集は、第3号以降の刊行物と同様、二つの特徴があります。一つは、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議（今回は2003年1月18～19日に湘南国際村で開催）において報告され、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。もう一つは、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されたことです。

本書を刊行する理由は二つあります。第1に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があることです。第2には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、個々の論文に対する質問等は、直接執筆者に対して行ってください(電子メールアドレスは各人の名前のあとの記号@sfc.keio.ac.jpです)。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの(各研究プロジェクト1編、計2編)は、従来どおり、その論文全体が単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究プロジェクト優秀論文は、それぞれすでに公刊されているほか、そのすべてがインターネット(岡部研究プロジェクトのウェブサイト、アドレスは下記)上でも公開されており、論文全体を簡単にダウンロードすることもできます。

2003年1月

総合政策学部 岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/~okabe/>

## 目次

### 研究会 1

金融制度と経済成長：実証研究を中心とした考察（鈴木卓実）	1
大手銀行の自己資本比率と経営実態（高橋浩太）	2
株価リターンの要因分析：株価からみた市場の期待形成の考察（福元千佳）	3
機関投資家の成長と日本企業のコーポレートガバナンス：国際比較の観点（伊藤貴史）	4
金融政策の波及経路と銀行貸出行動：クレジット・チャンネルを中心に（芦田拓真）	5
大手都市銀行におけるグループ化の効果（大野昌輝）	6
日本におけるベンチャーキャピタルの資金調達と投資活動：国際比較の視点（楠 寿大）	7
銀行のコーポレート・ガバナンス：銀行の経営体制（小谷光星）	8
日本の金融システムにおける投資信託の在り方：（日向里奈）	9
金融ビッグバンと個人の投資選択の動向（藤原史義）	10

### 研究会 2

日本の電力産業の自然独占性の検証：費用関数アプローチ（高松良光）	11
企業税制と設備投資（倉重雅一）	12
情報化の経済効果に関する地域格差分析（加藤卓也）	13
郵便事業の抱える諸問題：郵政事業民営化を考える（平山剛・勝本雄一郎）	14
情報技術革新の経済効果の概観：実証分析の整理とその評価（赤野滋友）	15
日本の中小企業金融：その特徴と課題（今井千寿）	16
日本における不良債権処理方法の検討：米国と北欧諸国の事例をもとに（田中康平）	17
消費者効用の推移に関する実証研究：顕示選好理論の適用（光安孝将）	18